



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和2年11月24日 NO.8

信越本線：下鳥踏切



## 「小さなできる」の積み重ね

## 「大きなやる気」を育てる

師がく指導者 海藤 英紀

先日、映画「ビリギャル」のモデルになった小林さやかさんの講演を聞く機会がありました。その中で、心を動かされたのは、『「小さなできる」の積み重ねが、「大きなやる気」を育てる。「全くできない」ところからはやらない』という部分でした。塾の坪田信貴先生との出会いと、その指導法を紹介していました。

師がくで、「小さなできる」を実践されている学校がありましたので紹介します。

### 1 学習モードを上げる。

これは、杉田久信氏の「子どもを伸ばす5つの取り組み」にも紹介されています。

授業開始時に、5分程度フラッシュカードやパソコンのパワーポイントのスライドショー、10ます計算等を使って、簡単なことを、リズムよく・テンポよく、動かしていく。そこには集中力が高まり、基本的事項が獲得されています。この方法は、特別支援学級の子どもたちにも有効で、子どもたちの授業への集中が長くなっていました。

実践例では、1年生のたし算で、子どもが数をめくり、10になる数を子どもに発表させていました。一方では、パワーポイントのスライドショーに漢字を入れ、声を出して読んでいました。その他にも、九九や地図記号、理科の植物名や実験道具名を言わせるといった実践も可能かと思いま

す。（これは、あくまでも学習のモードを上げるのが目的で、時間を取り過ぎて、授業が途中で終わらないように気をつけることが大切です。）

### 2 可視化する。

授業の中で、教師や子どもの言葉は、どんどん消えていきます。それについて行けない子は、それだけでいやになっていきます。特に、特別な支援を要する子どもは、大変です。視覚情報が第一言語、話し言葉が第二言語の人（フォトグラフィックメモリー）は、視覚情報がとても重要だという説もあります。

算数の授業で、個人の考えやグループの考えを、ホワイトボードに書いて、黒板前に掲示し可視化を図るとともに、比較検討を容易にして話し合わせていました。さらに、マグネットの名前を活用して、自分の考えの変化をマグネット名札の移動で、可視化を図っていました。ただ、ホワイトボードに書かせるときは、字の大きさを指導することが大切です。（小さい文字は、後ろの席の子どもには見えないと、反ってマイナスになります。）

各学校とも、素晴らしい実践が数多くあります。職員間で共有化を図り、子どもたちの学びをよりよいものにしていただきたいと思います。

## 巻頭写真に寄せて～『見附市史』は、学びの宝庫です～

### — 信越本線に「真っすぐな線路が誕生した理由」を知っていますか —



◇私の通勤経路は国道8号線に来て、坂井町から片桐町を経て職場へ至る。この夏、坂井町の交差点で工事があり、田之尻町から梅田町へ出る道を通った。このとき、下鳥踏切で左右確認をして驚いた。線路が見附方面も三条方面も、どこまでも真っすぐではないか。JRを利用する時は、座席から田園風景を眺め、前方を注視していなかった。調べると、北長岡駅から三条駅まで20km弱の間、ほぼ直線である。そして、この区間の真ん中に見附駅がある。見附駅が出来たのは、明治31年6月16日である。(開業当時は、北越鉄道で「見附停車場」と言った。)

◇『見附市史』には「停車場の位置は、計画段階では現在地から東南へ約3kmの見附町入口付近だった。それが、

- ・見附町入口付近に敷設されると土地がなくなる。汽車の煙が農作物に被害を及ぼすという反対があった。
- ・中之島村出身の大竹貫一代議員や今町の有力者が、今町に近い所に鉄道を敷設しようと運動した。と、現在地に移ったことについて、言い伝えられている。」と記述されている。鉄道の駅は、その町の玄関口と現在は考えられるが、これは、当時の人々の考えが分かる記述である。さて、明治の開業時は、長岡・見附・三条の町に停車場を作った。見附駅をこの場所に決めたことで、長く真っすぐな線路になったのである。

◇市史に、気になる記述があった。北越鉄道が国へ出した計画書によると、「直江津停車場を起点とし、柏崎・長岡・見附・三条・加茂・新津・水原を經由して新発田町を本線の終点とし、新津から分岐して、亀田を經由して沼垂(新潟)を終点とする支線を敷設する…」本線が直江津—新発田間。なぜ、新潟ではなく新発田が終点なのか。発起願人の中に大倉喜八郎の名があった。大倉喜八郎は、新発田市生まれの明治・大正時代の実業家で、帝国ホテル、サッポロビール、大成建設、東京経済大学等、数百の事業を起こした人である。

先月末、喜八郎が伊藤博文や渋沢栄一等の政財界の大物や海外からの賓客をもてなすために建てた、東京・向島の別邸「蔵春閣」が、新発田市に移築されるニュースがあった。正に喜八郎は、大実業家であった。『見附市史』は「学びの宝庫」である。ぜひ市史を様々な学習に、『みつけ塾』と共に、活用して頂きたい。

### コラム .. 「ICT研修」は、自身のスキルアップととらえたい ..

◇昔のことで恐縮だが、私は昭和50年代前半、大学生活を東京で送り、アルバイトをやった。勤め先は大手新聞社が出していた週刊誌「週刊S」である。仕事は雑用係で、この編集部が神田にあり、新聞社は大手町で、ここへ文書連絡で行く等の仕事は毎日あったが、週刊誌であるから、連日忙しいのではなく、締め切り日近くになると忙しかった。原稿取りに経済評論家や作家の所に行くこともあり、連載小説は大阪在住の作家が書いていて、この原稿が、毎週飛行機便で羽田空港に届き、それを取りに行った。40数年前であるが、メールは当然のこと、業務用FAXもよく普及していなかった頃である。このとき、社旗のついたハイヤーで行き来した。ハイヤー？って、思われた人に分かり易く言うと、映画『釣りバカ日誌』の鈴木一之助社長が、出勤に使う車を思い浮かべて欲しい。運転手が、帽子・手袋着用で、必ずドアを開け閉めしてくれる黒い立派な車で、普段は会社の偉い人が使っているが、空いている時に使わせて貰っていたのである。少し横道にそれだが、昭和50年代前半まで通信手段の主流は、郵送であった。現在は、幼児期からスマホの映像画面に慣れ親しんだり、SNSで、今、水害に遭っている被災者が、映像を同時配信したりする時代になった。さらに、携帯電話各社が、高速大容量の第5世代(5G)移動通信システム対応のiPhoneの「新型シリーズ機種」の宣伝を盛んにしている。「5Gの時代」である。

◇さて、文部科学省の「GIGAスクール構想」で、今年度中に、見附市の小・中学生全員にコンピュータ端末が用意されるという。待ったなしに「ICT(情報通信技術)」を活用した学びが、次年度から始まる。

先頃、学校教育課から出された『みつけICT教育通信』によれば、「これまでの教育実践の蓄積に加え、ICT(情報通信技術)を活用することで、学習活動の一層の充実や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が期待できる。」と、有効性が述べられている。そして、来年4月から、児童生徒が、コンピュータ端末が利用できるよう、2月末頃までに、校内ネットワーク工事や全教職員向けの研修が行われるという。教職員がICTに精通することは、児童生徒に学びの幅を広げ、学習活動の充実と個別最適化された創造性を育むことにつながる。研修を負担と考えずに、自身の「スキルアップ」と捉えてやっていきたい。(こ)

## 4時から夢塾 ～「古典」ってなんだろう？～

第11回「4時から夢塾」(示範授業)では10月13日(火),新潟大学附属長岡中学校の伊藤裕先生から,西中学校の1年国語:古典の授業で指導を頂いた。

### 1 授業の様子 教材名 「古典」って,なんだろう?

- 「古典と聞いて思いつく言葉をあげてみよう」→ワークシートに書く。
  - ・生徒の考え:古い本,妖怪,昔話,昔の話,昔の作品…。
- 「古典って,どんなものなのだろう?」→古典の形式(絵巻物と綴じ本),くずし字について紹介
- 「実際の古典を解説してみよう」→A:国会図書館蔵, B:早稲田大学蔵の2種類の『竹取物語』を提示
  - ・「さぬき」と「さるき」の表記の違いから,異本の存在意義を考えさせる。
- 「同じ作品でも違う形がある。どんなメリットがあるだろうか?」
  - ・生徒の考え:模写した人の個性が出る。模写した人の数が分かる。写した時代が分かり易い…。



### 2 ミニ講座 古典学習のアイデア

- 古典学習,どのように考えていますか?→授業で大切にしていることは? 難しいところは?
- (伊藤裕先生が)古典学習で大切にしていること。→①「音読-暗唱-内容理解」の型からの脱却  
②生徒がやってみたいと思える課題設定③教科書を複数のテキストとの比較から捉え直す教材研究「異本」
- これまでの実践 1 (1年『竹取物語』)冒頭部の音読,歴史的仮名遣い,物語の構成や特徴を捉える。
  - ・地名起源説話の理解→「富士山」の由来:不死-不死の薬を焼いた-煙がいつまでも-ふじの山
- これまでの実践 2 (2年『平家物語』敦盛の最期)
  - ①「教科書と異本との比較読み」を,読解を深める手立てとして設定する。
  - ②「知識構成型ジグソー学習」を,対話と読みを深める言語活動として設定する。
  - ・異本が数多い平家物語。琵琶法師の語りを文字化→語り本系統。文字で読まれること前提→読み本系統。
  - ・課題・「敦盛の人物像を明らかにしよう」⇒語り本と読み本との比較読み(古典の多様な世界に触れる。)
  - ・貴族としての敦盛はどのように描かれている?⇒戦場でも貴族の身だしなみや持ち物がしっかりしている。
- これまでの実践 3 (3年『奥の細道』)
  - ①教科書本文と芭蕉自筆本や諸本を比較し,芭蕉の推敲課程を分析する。
  - ②『奥の細道』と『曾良旅日記』を比較し,「虚構」について考えを深める。
- これまでの実践 …教科書に再録の古典教材を「異本」という視点から,系統的に指導することが可能。⇒古典の多様性を実感できる授業へ。



○おわりに …古典教材も「文学教材」である。

- ・生徒が「やってみたい」と思える授業を開発し,追求することが大切だ。

### <参加者の声>

- ・古典の授業が「暗唱で始まり理解へ」と,はまったものになりがちであった。あえて難しい課題に向き合わせることに挑戦してみようの気持ちになった。
- ・くずし字や異本の存在を知ること,古典への理解が深まることを学ばせてもらった。
- ・古典の授業の進め方で色々と悩むことが多く,役立つ地域や技術を教えて頂いて,参考にしようと思った。
- ・1年生の導入で,絵本等は使ったことがあったが,異本やくずし字を取り上げたことがなく勉強になった。
- ・小学校と中学校の国語のつながり,教材文と子どもの興味をつなぐもの等,考える機会を頂いた。
- ・適宜,ペアやグループでの相談時間を取ったり一人で考えさせたり,一時間のメリハリの付け方も真似したい。



11月

# 科学教育部



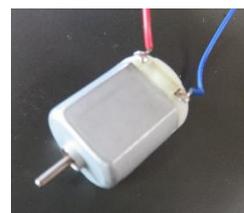
《今月の1枚》  
色づく秋の大平森林公園

【単元別研修会～小5 電流のはたらき～】

小学校5年生では「電流のはたらき」について学習します。主に電磁石のはたらきを軸とした単元です。3年生は「磁石」、4年生は「電気」についてそれぞれ学習したことを基にして、この単元の学習が位置付けられています。6年生は「電気の利用」を中心に扱い、中学校2年生で小学校4年間に学んだことを、より深く学習します。

電気の単元の学習の中心にあるのは「エネルギー」です。5年生の電磁石の学習で、児童ははじめて『電気が動力に変わる』ことを知ります。電磁石をモーターとして使うことで、家庭や社会で活用されていること、私たちの生活が支えられていることに気づかせたいものです。さて私たちの生活の中で電磁石が使われている製品をどのくらい思い浮かべることができるでしょうか？

【家庭】	【学校】	【その他】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォン</li> <li>・掃除機</li> <li>・電子レンジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コピー機</li> <li>・パソコン</li> <li>・CDプレイヤー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車や電車</li> <li>・エレベーター</li> <li>・遊園地の乗り物</li> </ul>



大小さまざまなモーターが使われています

児童・生徒の生活には、モーターを利用した製品は溢れるほど存在します。しかし、意識していないと見過ごしてしまいます。教室や家庭での生活に目を向けさせて、調べたり考えたりする活動を設定することが主体的な学習につながり、学習したことが生活と結びつき学習の深化につながります。

また、エネルギー環境教育の視点も大切です。SDGsの目標7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」があります。モーターはすべて電気エネルギーにより利用できるものです。これからの発電方法などを考えていくことにもつながり、他教科や総合的な学習の時間との関連を図ることができます。私たちが、広い視野をもって子どもたちを導いていくことを心がけていきましょう。



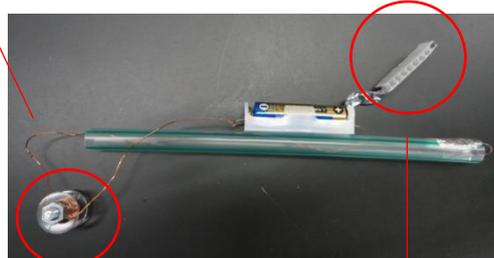
見附市もSDGsに取り組んでいます

【教材紹介】

小5：電流のはたらき

写真の教材は糸用ボビンにエナメル線を巻き、ボルトを鉄心としてナットで止めています。両端のエナメル線をストローの中に通して、つりざおやクレーンの形にしています。児童が作成して、一人一教材として単元を通して活用できるものになります。エナメル線の長さを変えたり、電池の数を変えたりして条件制御を意識しながら実験を行えます。

「ボビン」「ボルト」「ナット」で作成しています。ここでクリップを釣り上げます！



アルミホイルでスイッチを作成しました。持ち手にプラスチックダンボールを使うことで、発熱による火傷を防げます。



## ウイルスとは何か

新型コロナウイルス感染症が流行しています。他にもインフルエンザやノロなど、ウイルスによる感染症は一般的です。では、一体『ウイルス』とはどのようなものなのでしょう。ウイルスと同じように伝染病を引き起こす『細菌』とどのように違うのでしょうか。

私たちの体は、細胞を基本としてできています。細胞内には、遺伝子（核酸）の他にも様々な機関があるのですが、ウイルスは、遺伝子をタンパク質の殻で包んだごく簡単な構造をしています（外側に脂肪の膜があるウイルスもあります）。外界から養分を取り入れることもなく、単独で自己を複製することもできません。（自己を複製するときは、他の細胞に寄生して、寄生先の細胞にある材料を使うことになります。）このため、ウイルスは生物なのか無生物なのかははっきりとしません。どちらとも言えないあやふやな存在です。細菌は細胞でできていますので、生物です。ウイルスと比べれば、圧倒的に私たちヒトに近い存在です。

右の図は、『バクテリオファージ』という大腸菌に寄生するウイルスです。高校の生物で学習するので、図をご覧になった方も多いと思います。なんとも不思議で、魅力的なデザインです。宇宙船のようでもあり、小さなロボットのようにもあります。この形が人工的にできたのではなく、自然界が作り出したものであると考えると、自然の不思議さに感嘆せずにはられません。

新型コロナウイルスを不活化させるには、アルコール消毒もよいのですが、それよりも石けんでの手洗いが有効だそうです。これは、石けんが新型コロナウイルスの外側にある脂肪の膜を分解すると同時に、洗い流す作用があるからだそうです。

新型コロナウイルスに対する報道が連日絶えることはありません。しかし、むやみに怖がったり不安をあおったりするのではなく、科学的な根拠を基に対応したり、子どもたちに指導したりすることが大切だと感じています。（上北谷小学校 尾身直樹）

